

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	里地里山の特性評価の実施とこれに応じた保全活用の実施／環境教育・エコツアー(新分野研究開発型)
手法名	湿地を活用した学校ビオトープづくりを通じた生物多様性保全と環境教育活動の実施
主体	千葉県立船橋芝山高等学校(生物教室)
背景(地域の課題)	<p>近年学校ビオトープ活動が全国各地で見られるようになってきている。特に都市部の学校では、ビオトープの取組が学校内の教育だけでなく地域の生物多様性保全や普及啓発などの効果も期待されるようになってきており、参考となる先進的な取組事例が求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>芝山湿地は千葉県立船橋芝山高校の北端に位置し、船橋市が保全している斜面林と住宅地に囲まれている(写真1)。</p> <p>以前は水生植物のヨシなどが生い茂った荒地だったが、1999年、当時の理科教員がこの場所で斜面林から出ている湧水やそこに住むサワガニ、オニヤンマのヤゴ、プラナリアの存在に気づき、貴重な湧水と湿地を保全してより多様な里山生物の生息空間を作り、生物や地学の授業、部活動等で活用しようと考え整備を開始。整備面積は小学校のプール2つ分程(約600㎡)で、現在多種多様な生物が観察できる自然豊かな場所となっている。台地に降った雨水が湧き水となって斜面林下から湧き出して芝山湿地を潤している。</p> <p>湿地には池や田んぼ小川などを整備され、この地域では見られなくなってしまった里山環境を復元されている。田んぼには毎年古代米の緑米が生徒によって植えられ、授業の一環としてもこの場所は役立っている。また、「ホタル観賞のタベ」など地域との交流にも利用され、地域の生物多様性保全と普及啓発活動にも寄与している。</p> <p>芝山湿地にはホンドタヌキ、モズ、ツバメ、アオダイショウ、ニホンアカガエル、メダカ、シオカラトンボ、オニヤンマ、ヘイケボタル、サワガニなどの動物とヨシ、ススキ、ヤマホタルブクロ、コブシ、エゴノキ、キンランといった植物など合わせて約740種の生物達が生息(一部の生物は目撃のみ)。そのうち、千葉県のレッドデータブックに掲載されている種(千葉県で絶滅が心配されている種)は26種にのぼる。</p>
手法・技術的視点	<p>学校ビオトープの限られた空間を活用した保全事例として着目される。継続的なモニタリングを行いながら、斜面林や湧水など元々の地形・環境要因を巧みに生かしながら効果的に生物多様性保全に寄与している点は、他の学校ビオトープ活動のモデルとして参考にできると考えられる。</p>

実行プロセス・運営体制のイメージ

芝山湿地の構成

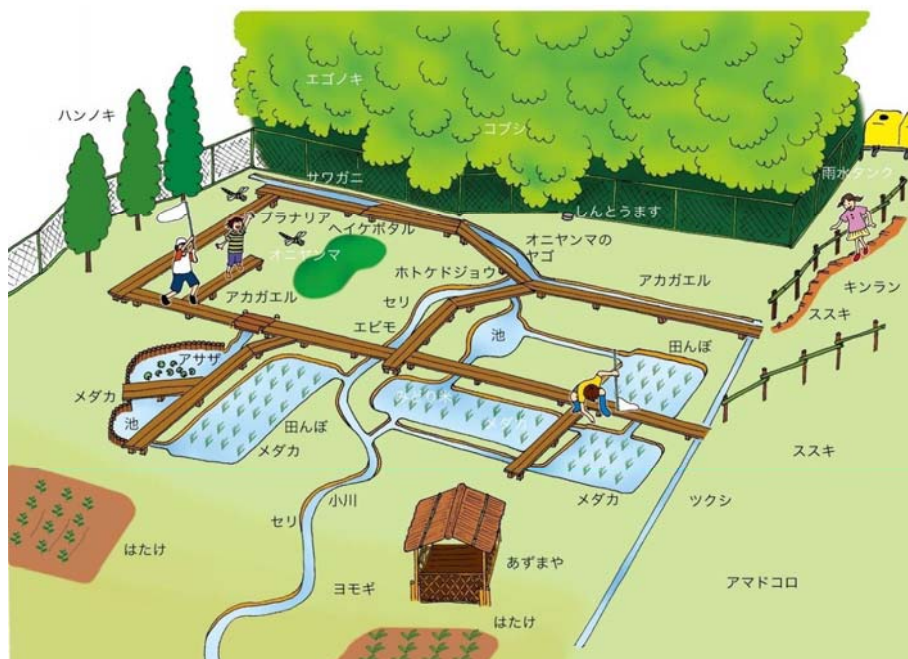


写真1: 住宅地に位置する芝山湿地



写真2: 授業で利用される芝山湿地(米づくり)



図・写真資料

写真3: ホタル観賞の夕べの様子



参考資料

平成25年度里なび研修会in千葉県八千代市パワーポイント資料「ビオトープづくりから見える生物の保全」(檀村豪紀)